

## 緑ヶ丘病院について

## 1 十勝第三次医療圏域における精神科医療提供体制について

## (1) 主な精神科医療機関の状況

(令和4年4月現在)

区分	名称	所在地	開設者	精神 病床数 (許可)	医療機能						
					措置 入院	応急 入院	救急 医療	認知症 センター	デイ ケア	訪問 看護	児童 精神
病院	道立緑ヶ丘病院	音更町	北海道	168	○	○	○		○	○	○
	国立帯広病院	帯広市	国立病院機構	100	○	○	○		○	○	
	帯広厚生病院	帯広市	厚生連	45	○	○				○	
	大江病院	帯広市	医療法人	154	○	○		○	○	○	
合計				467	4	4	2	1	3	4	1

## (2) 精神科救急医療の状況

- 道では、休日・夜間等において、精神疾患の発病や症状の再燃により速やかに精神科医療を必要とする者に対し診療を行い、必要に応じて入院させる体制を全道8圏域で輪番制により確保。
- 十勝圏域においては、道立緑ヶ丘病院と国立病院機構帯広病院が輪番病院に指定。

【救急医療件数】

病院名	H31(R1)	R2	R3
道立緑ヶ丘病院	210	202	198

【輪番時救急医療件数】

病院名	H31(R1)	R2	R3
道立緑ヶ丘病院	158	169	140
国立病院機構帯広病院	78	58	58
合計	236	227	198

## (3) 児童・思春期精神科医療における役割

- 道立緑ヶ丘病院が、十勝圏域及び道東地域で唯一となる専門外来や専用病床を有しており、圏域の中心的役割を担っている。

【児童・思春期外来患者数（延患者数）】

H31(R1)	R2	R3
5,358	5,176	5,872

## 2 緑ヶ丘病院の現状について

## (1) 沿革

年 月	内 容
S28. 2	・緑ヶ丘病院開設（病床数 113 床）
S59. 7	・旧病院から移転開設（現庁舎）（病床数 270 床）
S60. 10	・音更リハビリテーションセンターデイケア施設承認
H4. 4	・音更中学校緑ヶ丘病院分教室開設（H19.2 休校）
H10. 10	・北海道精神科救急医療システム事業病院指定
H12. 7	・運用病床 240 床
10	・応急入院指定病院の指定
H16. 3	・運用病床 216 床
4	・医療保護入院等診察料の施設基準の届出
H23. 6	・運用病床 187 床
H24. 3	・許可病床数 270 床→187 床に変更
H24. 4	・音更リハビリテーションセンター廃止（リハビリテーション科新設）
H26. 4	・運用病床数 156 床
H27. 3	・許可病床数 187 床→168 床に変更 ・スーパー救急病床増築（保護室 7 床）、運用病床 137 床 ・精神科救急入院料 I の施設基準の届出
H31. 1	・依存症専門医療機関（アルコール）の指定
R1. 10	・運用病床 137 床から 77 床に変更

## (2) 病院概要

(令和 4 年 4 月 1 日現在)

区 分	現 行
診 療 科	精神科、児童・思春期精神科
病 床 数	運用病床総数 77 床(1 病棟(児童、成人)45 床、2 病棟(スーパー救急)32 床) ※許可病床 168 床
職 員 数	101 名 (医師 5、看護職員 65、医療技術者等 17、精神保健福祉士・判定員など 3、事務 11)
特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十勝第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の中心的役割</li> <li>・精神科救急入院料（スーパー救急）病棟を運用</li> <li>・精神科救急医療システム指定病院、精神科応急入院指定病院</li> <li>・依存症専門医療機関（アルコール）の指定</li> <li>・十勝第三次医療圏における児童・思春期精神科医療の中心的役割</li> </ul>

## (3) 医師、看護師数の推移

(各年度 4 月 1 日現在)

区 分	H31(R1)		R2		R3		R4	
	定数	現員	定数	現員	定数	現員	定数	現員
医師	9	8	9	7	9	6	9	5
看護師	69	71	69	65	66	66	66	63

※看護師には准看護師を含む。

【現員数（各年度4月1日現在）】

年度	医師	看護師	保健師	薬剤師	放射線技師	検査技師	保育士	作業療法士	管理栄養士	精神保健福祉士 判定員等	事務職員	計
H31	8	71	3	2	2	3	1	5	1	7	12	115
R2	7	65	2	2	2	3	2	5	1	5	11	105
R3	6	66	2	2	2	3	1	5	1	7	11	106
R4	5	63	2	2	2	3	1	5	1	6	11	101

(4) 病棟別病床数及び平均患者数

<H31年4月(入院患者数：H31.4月計)>

区分	許可	運用	入院患者数	患者病態	再編	許可	運用	R1下半期 入院患者数	R2 入院患者数	R3 入院患者数	患者病態
						60	45	30.2	27.7	23	
第1病棟	60	60	17	児童思春期、回復期成人		60	45	30.2	27.7	23	児童思春期、回復期成人
第2病棟	45	45	20.9	S救急後方支援		45	0	0	0	0	(休床)
第3病棟	32	32	31.2	スーパー救急病棟		32	32	27.5	26.3	24.7	スーパー救急病棟
第4病棟	31	0	0	(休床)		31	0	0	0	0	(休床)
計	168	137	69.1			168	77	57.7	54	47.7	

(5) 疾病別、入院期間別患者内訳 (R4.3.31 現在、括弧内は R 元.11.30 現在) (単位：人)

区分	10年超	5~10年	1~5年	6月~1年	3~6月	3月未満	計
統合失調症	1(0)	2(2)	5(3)	5(3)	4(3)	4(14)	21(25)
認知症	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
その他	0(1)	1(0)	2(1)	3(0)	6(3)	4(18)	16(23)
計	1(1)	3(2)	7(4)	8(3)	11(6)	8(32)	38(48)

(6) 他院への転院件数

H31(R1)	R2	R3	主な転院先
42件	50件	44件	帯広厚生病院、帯広協会病院等

※身体合併症等の患者で精神疾患以外の疾病で他院に転院（搬送、紹介）した件数

(7) 1日平均患者数の推移

区分	年 度	H31(R1)	R2	R3
		病床数(運用) 4月~9月 137 床 10月~3月 77床	77床	77床
入院	1日平均患者数	57.7人	54.0人	47.7人
	病床利用率	年間 53.9% (4~9月 45.8%) (10~3月 68.2%)	70.1%	62.0%
外来	1日平均患者数	157.2人	142.5人	149.8人

## (8) 精神科救急（スーパー救急）入院料病棟(32床)稼働状況

区分	H31(R1)	R2	R3
1日平均患者数	27.6人	26.3人	24.7人
病床利用率	86.0%	81.7%	77.1%
平均在院日数	56.0日	37.0日	44.1日

&lt;入院種類別実患者数&gt;

区分	H31(R1)	R2	R3
実患者数計	337	289	232
任意入院	135	166	79
医療保護入院	188	109	147
措置入院	0	3	0
応急入院	14	11	6

## (9) 精神科デイケアの状況（小規模型～1日定員30人）（単位：件）

区分	H31(R1)	R2	R3
年間件数 (1日平均)	3,191 (13.2)	2,502 (10.3)	2,564 (10.6)
実施体制	医師1、看護師1、保健師1(R4.4現在)		
実施日程	週5日実施		

## (10) 精神科訪問看護の状況（単位：件）

区分	H31(R1)	R2	R3
年間件数 (1日平均)	7,901 (32.8)	6,287 (25.9)	5,503 (22.7)
実施体制	看護師2、保健師1、OT3(R4.4現在)		
訪問日程	週5日実施		

## (11) 病院の収支状況等について

区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3			
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込		
収益的 収支	収益 A	(百万円)	1,277	979	1,272	909	935	831	
	費用 B	(百万円)	1,964	1,825	1,968	1,854	1,948	1,753	
	収支差 C=A-B	(百万円)	▲687	▲846	▲696	▲945	▲1,013	▲922	
経営 指標	病床利用率	(%)	73.1	53.9	73.1	70.1	72.7	62.0	
	医業収支比率	(%)	61.9	49.7	61.5	43.6	43.1	41.7	
	医薬材料費対医業収益比率	(%)	6.4	8.5	6.4	8.2	8.0	8.9	
	後発医薬品使用割合	(%)	74.0	81.4	76.0	81.4	80.0	83.8	
	精神科救急入院料病棟病床利用率	(%)	94.0	86.4	94.0	81.7	87.6	77.1	
	訪問看護件数	(件)	8,150	7,901	8,150	6,287	6,556	5,503	
	デイケア件数	(件)	2,850	3,191	2,850	2,502	2,940	2,564	
	入院	1日平均患者数	(人)	100.2	57.7	100.2	54.0	56.0	47.7
	院	患者1人1日当たり収益	(円)	22,085	26,092	22,085	25,178	25,455	23,879
	外来	1日平均患者数	(人)	170.0	157.2	170.0	142.5	139.1	150.5
	患者1人1日当たり収益	(円)	8,665	8,361	8,665	8,087	8,390	7,677	

## 3 北海道病院事業推進委員会からの評価・意見

H30	○病院機能の検討結果を踏まえ、病床規模や人員配置の適正化などの取組を進めること。
R 元	○病棟の再編及び病床規模の適正化を図ったことは評価する。 ○患者の地域移行を進めているところであり、患者のニーズを十分踏まえ、民間と連携した訪問看護やデイケアの充実に努めること。 ○今後の患者動向等を見据え、精神科医療を取り巻く環境変化に的確に対応した病院運営に努めること。
R2	○地域連携室を中心に院内外の連携を一層強化して新規患者確保に取り組むなど利用率の向上やデイケアが安定的に利用されるように努めるとともに、訪問看護について地域との適切な役割分担を推進すること。 ○今後の患者動向等を見据え、精神科医療を取り巻く環境変化に的確に対応した病院運営に努めること。

## 4 緑ヶ丘病院の方向性等について

### (1) 現状

- 精神科救急医療の輪番制に参加するとともに、精神科救急入院料（スーパー救急）病棟を中心として、十勝第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の中心的役割を担っています。
- 精神科救急入院料（スーパー救急）病棟の利用率は概ね 80%で推移しています。
- 「入院医療中心から地域生活中心へ」という国の方針に沿って、患者の地域移行を進めるとともに、急性期治療後の在宅患者支援のため、精神科デイケア、訪問看護を実施しています。
- 児童・思春期精神科医療については、十勝圏域や道東地域で唯一となる専門外来や専門病床を有し、圏域における中心的医療を提供しています。
- 病床数の適正化を図るため、令和元年(2019年)10月から運用病床数を 77 床としました。
- 年々、常勤医師の確保が難しくなっており、応援医師を確保して体制を維持しています。

### (2) 課題

- 許可病床数(168 床)と運用病床数(77 床)に乖離が生じ、現有施設の未活用部分が過大となっていることから、施設の効率的な活用方法等を検討する必要があります。
- 昭和 59 年(1984 年)に供用を開始した施設が本計画期間内に耐用年数を迎え、施設の老朽化が進行しています。
- 患者の減少傾向が続いていることから、地域に求められる病院としての機能・方向性について検討する必要があります。
- 圏域における福祉サービスの利用増や民間事業所との役割分担などによって、デイケア件数や訪問看護件数が減少しています。
- 精神科救急医療をはじめとする診療体制の維持に向けて、常勤医師の確保が必要です。

### (3) 方向性について

- 精神科救急急性期医療入院料（スーパー救急）病棟を中心に、十勝第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての機能を担います。
- 国が推進する「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、今後も患者の地域移行を着実に進めるとともに、精神科デイケア、訪問看護等の在宅患者支援については、患者の幅広いニーズに対応するため、地域の行政機関や民間事業所との連携や役割分担を進めます。
- 十勝圏域・道東地域で唯一となる専門外来や専用病床を有している児童・思春期精神科医療の機能を担うとともに、周辺の自治体や学校などと連携しながら、適切な医療を提供することができるよう努めます。
- 許可病床数と運用病床数の乖離の適正化や休床部分の有効活用を図るとともに、老朽化している現有施設のあり方について、今後の患者数の動向等を踏まえながら、病床の規模や患者の療養環境など、地域で求められる病院としての方向性を検討します。
- 診療体制の維持に向けて、常勤医師の確保に引き続き取り組みます。